

まなびや

教科書の思い出・印象に残る話

当時も感動の話でしたが、今でも...

教科書といえば、歴史上の人物肖像画、パラパラまんが、外国人のイラストなどを思い起こす方もいらっしゃると思いますが、印象深い言葉、ストーリーが懐かしく、心に残った作品が数多く思い出されます。

くじらぐも

中川りえ子・昭和46年



一年二組の体育の時間に表れた鯨の形をした雲。くじらは一緒に体育の授業を楽しみ、先生と生徒たちを乗せて空の旅へ。そして四時間目が終わるころには皆を学校に戻し、空の中へと帰って行った。小学校一年生で習った、楽しく印象的な内容でした。

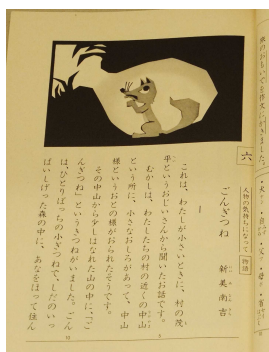
【展示室C・教科書の歴史】



ごんぎつね

新美南吉・昭和31年

きつねのごんは、兵十が病気の母親のために用意したウナギをわざと逃がしてしまいます。ところが、その後母を失って落ち込む兵十を見てごんは反省、償いのために魚や栗を兵十の家に届けはじめます。しかし、そうとは知らない兵十はごんがまたいたずらをしにきたのだと勘違いし、火縄銃で撃つてしまいます。



大造じいさんとガン

椋 鳩十・昭和16年

両翼に白い模様のある「残雪」と呼ばれるガンと、猟師の大造じいさんとの話。残雪は非常に賢い鳥で、数年は残雪の圧勝が続きますが、ある年、大造じいさんは奇策を思いつきます。がハヤブサの襲撃で事態は一変し……狩る者と狩られる者に芽生える、奇妙な友情が描かれています。



やまなし

宮沢賢治・大正12年

宮沢賢治の数少ない生前発表童話作品のひとつ。谷川の中の情景を綴った物語で、二匹のカニの兄弟のやりとりや、カワセミの魚をとらえる姿などが、瑞々しく描かれています。「クラムボン」はわらったよ」はおなじみですが、「クラムボン」には特定の意味がなく、「かぷかぷ」「ぼかぼか」という表現も独特。

